

平成 2 8 年 6 月 1 6 日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日 時	平成 28 年 6 月 16 日（木） 午後 3 時 00 分					
場 所	教育委員会室					
開 会	午後 3 時 00 分					
閉 会	午後 3 時 52 分					
出席委員						
教 育 長	加 藤 裕 之	雁 部 隆 治	阿 部 博 道	坂 根 慶 子	浅 松 三 平	
委 員						
委 員						
委 員						
委 員						
説明のために出席した職員						
教 育 委 員 会 事 務 局 次 長	後 藤 隆 宏					
教 育 委 員 会 事 務 局 参 事 （ 庶 務 課 長 事 務 取 扱 ）	岸 川 紀 子					
教 育 委 員 会 事 務 局 参 事 （ す み だ 教 育 研 究 所 長 事 務 取 扱 ）	高 橋 宏 幸					
学 務 課 長	須 藤 浩 司					
指 導 室 長	月 田 行 俊					
生 涯 学 習 課 長	岡 本 香 織					
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	佐 久 間 英 樹					
ひ き ふ ね 図 書 館 長	石 原 恵 美					

2 議題について

(1) 議決事項

第 1 議案第 5 9 号 墨田区図書館運営協議会委員の委嘱について

第 2 議案第 6 0 号 旧寺島図書館の用途廃止について

(2) 報告事項

第 1 第 4 6 回墨田区民謡連盟大会表彰について

第 2 教育課題の進捗状況について

3 会議の概要について

- **教育長** ただ今から教育委員会を開会します。本日の会議録署名人は阿部委員にお願いします。本日は、議決事項 2 件、報告事項 2 件を予定しております。

議決事項第 1・・・資料 1～2

議案第 59 号「墨田区図書館運営協議会委員の委嘱について」を上程し、ひきふね図書館長が資料のとおり説明する。

- **教育長** ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。
- **坂根委員** 任期が、平成 28 年 6 月 25 日から平成 30 年 3 月 31 日までとなっていますが、学校長の場合、任期中に退職や転勤等があった場合は、どのようになるのですか。
- **ひきふね図書館長** 学校長については、区小研、区中研の図書館部長になるという充て職になっていますので、退職や転勤等がなくても図書館部長が替わればその方に委嘱することになります。
- **教育長** それでは、議案第 59 号は、原案どおり委嘱することにしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、原案どおり決定することとします。

議決事項第 2・・・資料 P 3～6

議案第 60 号「旧寺島図書館の用途廃止について」を上程し、ひきふね図書館長が資料のとおり説明する。

- **教育長** ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。
- **阿部委員** 理由に「福祉施設の整備」とありますが、具体的に何か決まっていることがあるのでしょうか。
- **ひきふね図書館長** 予定としては、障害者施設と聞いております。
- **教育長** それでは、議案第 60 号は、原案どおり廃止することにしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

- **教育長** それでは、原案どおり決定することとします。

報告事項第 1・・・資料 P 7

「第 46 回墨田区民謡連盟大会表彰について」、生涯学習課長が資料のとおり説明する。

- **教育長** ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。

（質疑・意見なし）

報告事項第 2・・・資料 P 8

「教育課題の進捗状況について」、所管課長が資料のとおり説明する。

- **庶務課長**（学校 ICT 化の推進について説明）
- **すみだ教育研究所長**（すみだ教育指針の策定、学力向上新 3 か年計画の実施、幼保小中一貫教育の推進について説明）
- **スポーツ振興課長**（（仮称）総合運動場等整備事業について説明）
- **教育長** ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。
- **浅松委員** 「学力向上新 3 か年計画の実施」の実績で、授業改善ヒアリング（前期）が 5 月 12 日に終了したとのことですが、学校 ICT 化について、昨年から中学校全校と一部小学校に整備されたことにより、昨年度の 5 月当初にヒアリングを行った学校の改善状況と比較してみて、ICT 化

をしたことによる授業改善や学校の工夫等についてのヒアリングができたのかどうかをお聞きしたい。

- **すみだ教育研究所長** ICTを使って、分かる授業を展開するということについて、方向性を出している学校は多いですが、ICTを使って具体的に何をして学力向上へつなげていくかといった報告はまだです。今回、ICTの中で問題を自由に選択してできるといったところを活用して、生徒全員にID番号を発行し、自宅のパソコンで実践してみるといった取組が、少しずつ始まっているといった状況です。
- **教育長** ただいまの件について、ICTの活用実態について、指導室長から補足してください。
- **指導室長** 昨年度において、来年度は全ての小学校へ導入されるだろうといった噂が出たときから、校長というよりも教務主任レベルの教員が、うちの学校だったらどのようなスタイルで教室に配置したほうがよいか、といったことを計画的に考えており、そういう意味では、昨年度庶務課において実施した、ICTの研究発表の機会を捉えて、かなり熱心に見ているという実態はあります。それから、今年度、新たに入る校長に対してヒアリングをしたところ、かなり遅れているという認識がありましたので、既に導入している学校の先生に来てもらうとか、あるいは、実際に自分たちでその学校に行って、具体的にどのようなことができるのか、といったことについて早く検討し、9月以降に導入されたときに、スムーズに取り込めるような体制を取っていきたいという意見もありました。
- **坂根委員** 私は学校公開などで、校長、副校長、先生方からお話を伺ったところ、ICTをどこに設置するか、あるいは、その場所をもう決めました、といったことを聞きました。それから、どのような計画をしているかといったことについても聞きました。私からも情報提供として、既に導入している学校では、昨年の導入前の4月から研究会を立ち上げて準備していた、といったことについて伝えました。それを受け止めた学校というのは、具体的にそのような形で動いていくと思います。
- **浅松委員** 私としては、基本的にICTを活用して、授業改善を考えた授業であるとか、その辺りを意識した色々な計画を校長の方から示し、それに向かっていく雰囲気を感じたいと思いましたので、また、機会がありましたら提供してください。
- **指導室長** 中学校は、既に全校導入しており、小学校についても順次導入していくということで、区の小学校研究会の冒頭の全体会においても、20分くらい説明する機会がありました。現在は若手の先生も比較的多いということを数字で示した上で、ベテランの先生の持ち味を生かしたものと若手の先生の力を組み合わせた教材等も含めて、どれだけ共有化を図り、質を高めていくかということが大切で、そういった意味でもICTを活用することができる、ということを伝え、更に研究に取り組んでくださいと伝えました。私共も学校に行った際には、そういった視点で見たいと思っています。
- **庶務課長** ICT化については、ただ導入しただけでは意味のないことだと考えており、事務局においては、学校へ集中的に研修を行っているところです。牽引する部分として標準的な入り口を作るのですが、それぞれどういったところで分かる授業へと展開していくか、といったことが重要になってきますので、よい授業といわれるものを参考にしながら、ぜひ、先生方全員がICTの活用を図れるよう、取り組んでいきたいと思っています。
- **教育長** ICT化をしたときに、授業の質の話は当然のことですが、時間短縮できるような授業、例えば、張り紙をしたり、板書をしたりすることなどを合理化することにより、話し合いをする時

間や、説明をする時間を増やすことができると思います。「授業の中のたったの5分か。」といった話が出るがありますが、授業の中での5分というのは、非常に大切なものなので、そのようなことから、時間短縮について併せて考えていきたいと思っています。いずれにしても、学校で先生方がICTを活用する気持ちにならないと、なかなか実行できないということもあります。かつ事務局としても「しかけ」について、先ほど、庶務課長からも説明があったように、例えば、黒板がどのように表示され、それは子どもたちにとっては余裕を持ってできることなのかどうか、あるいは、内容によっては説明するよりも、画像を直接見せたほうが分かりやすい場合もあり、それは短時間で済むことになることでもあるので、どのようにしていったらよいのか、または、三角形のような、従来は、現物を見せると時間がかかっていたことを、ICTの中で画像を転回してみたり、そのほかには、地図を活用してみたりといったように、色々考えられます。また、時間短縮による合理化と共に、視覚的に表現することにより、子どもたちの記憶に留めやすくするといったことなどについても、事務局では考えています。内容は、できるだけ学校で使いやすい形にすることを考えているので、学校と協同しながら取り組んでいきたいと思っています。

- **坂根委員** 庶務課長から説明のあった、ICTの集中研修というのは、先日、文花中学校で校長先生方に対して行われたものですね。庶務課長もいらっしゃいましたが、私も参加いたしました。あれはそのひとつということですね。
- **庶務課長** はい、そのとおりです。職層に応じた研修となっています。先日、坂根委員に参加いただいたものは、管理者向けの研修です。それだけではなく、例えば教務主任レベルの先生向けの研修であるとか、職層に応じた研修の展開についても必要だと考えており、セキュリティの研修といったものについても必要だと考えております。
- **坂根委員** これは、いつ頃まで行う予定なのでしょう。
- **庶務課長** 時期は多少ずれるかもしれませんが、秋口くらいまでを予定しています。
- **坂根委員** 私は、たまたま学校公開で文花中学校へ行ったときに参加することができたもので、ご報告いたしました。
- **庶務課長** ありがとうございます。
- **教育長** 指導室長から何か補足はありますか。
- **指導室長** 研修は、庶務課が中心で行っておりますが、プレゼンテーション等は7月頃に実施することを考えておりますので、時期に合わせて行っていきたいと思っています。
- **雁部委員** ICT化に関連してですが、既に導入している、ある学校の校長から聞いた話ですが、とても授業が分かりやすくなり、理解度も進んでいるように見られるけれども、定着度には至っていない、といった感想を話していました。「ICT化によって分かりやすい授業」というのは理解できるのですが、問題となるのは、分かったことを、子どもたちが例題を解くといった、何度も繰り返すこと、例えば、計算や漢字の書き取りもそうですが、これをやらなければ、結局は身につかないと思います。ICT化で確かに分かりやすくなったと思うのですが、分かりやすい授業をするということと、子どもたちが分かったことを身に付けることとは、少し違うという話を聞きました。空いた時間に、繰り返し似たような問題を少しでも多くやっていくとか、そういう方法についてまでを、きちんと計画して行わないと、ただ、ICT化で分かりやすい、いいだろうでは、おそらく学力の定着というのは進まないと思います。ICTを利用した後のフォローをどうするのか、というのが今後の課題だと思いますので、それも含めて進めていかないといけないと思います。結局、機械を入れても意味がない、ということにもなってしまいますので、その辺りを考慮していただき、

それが、子どもに対して本当に身につけていることなのか、ということを確認していく必要があると思います。

- **指導室長** そのとおりだと思います。まず、全く興味関心を示さなかった子どもたちに興味・関心をもたせる点から言いますと、ＩＣＴ化は絶大な効果があると思いますし、様々なところでも認められています。それだからこそ、今まで見なかったことを見るようになった、そこから次にどういう手だてを講じるのか、ということが重要であると、私も認識しております。また、今年４月２１日の教育委員会で議決された「教育委員会だより（教員用）」に切り込んだ内容でもあると思いますので、この「メッセージ」をどれだけ具現化していくか、というのが私たちの使命だと思っています。
- **教育長** ＩＣＴの中で、現在、庶務課で検討してもらっていることがあります。授業で新しいことをするときに、前の授業の振り返りの問題を出して、例えば、「１ケタ＋１ケタ＝」を、前の授業での答えは「１ケタ」であったものを、今日は、「２ケタ」にする勉強をします、といった新しい「ねらい」は出るのですが、その前の「ねらい」というのがあまり出なかったということがあります。それについて、必ずデータとして引っ張ってくるようにするとか、その他には、宿題についても、現在、学校でも市販の問題集を購入して行っているところですが、将来的には、ＩＣＴの中に段階くらい入れて、基礎とか発展といったようにできたらいいと思っています。そのことで、家庭学習すなわち宿題をするということで、定着につながっていきます。ただ単に宿題をするということだけではなく、それを習慣化し、自学自習、さらには明日の予習までできるような形に持っていけたらいいと思っています。宿題もＩＣＴ化をすることにより、前の問題を中に組み入れて、もう一度復習をすることもできますので、そのような形も考えています。ＩＣＴ化はあまりにも膨大な量であるため、時間がかかることではありますが、このような構想を立て、庶務課、指導室及びすみだ教育研究所が中心となって考えております。やはり、定着については、学校だけではできないことですので、学校は子どもたちに理解させて、例題や練習問題を使って定着に入らせ、次に自分の時間を使って先へ進めていく、それは、先ほど指導室長が説明した「メッセージ」に込められた内容になっています。今後このような形でＩＣＴ化を成功させていくには、学校と教育委員会が連携して取り組んでいかななくてはならないので、そのようなことから進行管理をしっかりと行っていきたいと思います。
- **坂根委員** 先ほど、雁部委員が言われたことは当然のことだと思いますし、私も参加したＩＣＴ研修でも講師の方から出た意見ですが、ＩＣＴは魔法の杖ではありません。それからもうひとつ言えるのは、多く使われているのは実物投影機であるということなのです。私も実際使っているのですが、非常に単純な物ですから、それを上手く活用していくということを、これは、先生方の意識も必要ですが、地域の方や保護者にもきちんと伝えていかなければなりません。こういうものを使って、効率がよくなるだけではなく、雁部委員や教育長も言っていたように、自学自習についても、ＩＣＴは非常に自習学習に向いているという点など、こちらから活用について発信していく必要があります。保護者からのアンケートで、学校のパソコン教室で何をやっているのか分からない、という意見があった学校の公開授業で、実際にパソコン教室を見ました。すると、保護者に対して、子どもたちがどのようなものを見ているかなどを、実際に画面を見せながら校長先生が説明していました。このような形で全般的に説明ができるようになればよいと思います。
- **教育長** 学校公開では、そのような視点も含めて対応するよう、学校へ話をしていきたいと思います。

- **浅松委員** 私が最初に申し上げたことに対しては、既にご意見をいただいているところですが、授業デザインを考えていくのに、ICT化はよい機会だと思っています。それに伴って年間の各教科、中学で言えば、年間指導計画に基づいて評価をしていき、その際にICTによって授業デザインをしていく、そのことで評価をどうしていくのが基本になっていくと思います。ですから、単純に5月12日に授業改善ヒアリングが終わりました、だけではなく、その時点では課題としては雑ばくなものだったと思うのですが、その部分を1年あるいは2年、可能な限り研究し、そして職層にもあった研修も含めて、2年目、3年目、あるいは10年目、それぞれのキャリアによるその部分での授業デザイン形成ができると思います。やはり、その辺りのところが、最終的には子どもたちの評価へとつなげていくものなので、授業はやったものの評価はどうしているのか、といったところまで突き詰めていかなければならないと思います。
- **教育長** 結局、理解度としたときに、例えばICTによる学力調査は色々あるのですが、日々のテストでどのくらい分かっているかというのが、基本になってくると思います。ただ、そうは言っても、子どもたちというのは学んだことを忘れてしまいます。ですから、そのテストの仕方や評価について、何を題材にするのか、例えば、1学期に行ったことを2学期にちりばめていくのか、といったような、その方法というのは、今後、上手くICTを活用していくということだけではなく、その結果、どのくらい子どもたちが分かってきたか、ということについて、後から点数になって表れてきますので、そこを見ていきたいと思っています。
- **阿部委員** これに関連して、別のことでお話ししたいのですが、育成委員会で海外留学について、皆さん大変関心を持って対応していることがよく分かりました。ただ、私自身がよくその中身を分かっているところがあります。以前、ある父兄から自分が若いときにもこのような制度があったという話を聞いたりして、海外留学については、かなり期待度も高いものだと感じました。これはよい取組だと思いますので、具体的にどのようなことをするのかをアナウンスして、皆さんに関心を持ってもらうことが必要だと思います。例えば、平成29年度から語学の授業でもこうなりますよと言えば、子どもたちも非常に関心を持って勉強に取り組むと思いますので、具体的な説明を付けてもう少しアナウンスした方がよいのではないかと思います。
- **指導室長** 実は、現時点において、まだアナウンスできない状況です。その理由ですが、7月頃に事務局の方で現地へ赴き、プロポーザルで決めた業者と共に、現地の方々とのプログラムを考えており、その原案を基に実地踏査を行った上で、例えば、現地で交流を行う学校はどこにするのか、あるいは、ホームステイ場所はどのエリアにするのかといったことを決めたいと考えています。原則、全てホームステイということで考えていますが、こちらの要望がどこまで相手の方で受け入れてくれるものなのか、といったようなことが、未知数なものですから、現時点においては「来年度やります。」ということしかアナウンスできない状況にあります。実際に現地で実地踏査をした後に、最終調整をしていく中で、イメージとしては、概ね12月頃には、地域や保護者、学校向けの説明会を開催し、1月頃からは選考に入っていく、3月末までには、教育委員会で選考面接を実施し、各校2名を決めていきます。各学校で2名決めてこちらにあげてもらうのではなく、こちらである程度の成績基準を作る予定なので、その中で学校から、例えば、10名手をあげてくるようなことがあれば、10名全員を区役所へ送ってもらい、その中で選考面接を行います。また、面接の内容もどのようなものにするかはこれから考えていくところで、12月頃には固めていく方向でありますので、アナウンスはもう少しお待ちいただきたいと思っています。ただ、現時点で、指導室にも募集方法等について問い合わせは来ております。

- **教育長** 細かいことについては、指導室長が説明したとおりですが、阿部委員が言うように、今の段階で話せることや今後の流れについては、校長会を通じて学校の方へ伝えたほうがいいと思うので、なるべく出せる情報は発信した方がよいと思います。このような形で進めさせていただくという事でいいですか。
- **坂根委員** このことについて、阿部委員自身が「私はこのように考えています。」と発言されるのはよいと思います。私は、先日の総合教育会議で、受信型よりも発信型と申し上げました。そして、よくホームページ等で情報をご覧ください、とも申し上げましたので、そういうことであればよいと思います。
- **阿部委員** 私が考えているところでは、交換留学という方法も、大変なことではありますが、とてもいいことだと思っています。
- **指導室長** そういったリソースは私共も考えているところです。しかし、相手方にニーズがないというような話がありますので、無理やりにそれを行うというのは、現在は厳しいかと思っています。しかし、相手に要望があれば行っていききたいとは考えています。
- **教育長** なるべく要望については、学校の方にも伝え、進めていただくようお願いいたします。
- **雁部委員** 学力向上に関して、現在、盛んに先生方の研修等が行われているところですが、ある学校で、校長が出張、副校長が研修で、校長副校長共に学校にいない状況が、前よりもひどくなっているという話を聞きました。例えば、何かあった時に校長も副校長も不在という状況を生んでいると、学校が困ってしまうので、その辺りのスケジュール調整というのをもう少し考えてあげたほうがよいと思います。やはり、校長も副校長もいないということになると、主幹が責任を取るようになってしまうので、校長がいないときは必ず副校長がいる、副校長がいないときは校長が学校にいることとして、メインは子どもたちなので、まず学校を主体に考えてスケジュールを組んでいかれた方がよいと思います。研修が多い時期に、たまたまそういうことがあったということだとは思いますが、学校において両方の責任者がいないということは、できるだけ避けていただきたいと思います。
- **指導室長** 区内で行われている研修については、十分に配慮をしているところではありますが、都の施策で行っている研修については、別途、区へ下りてきますので、区側のスケジュールに関係なく唐突に出てくるものもあります。それでも、都が、あらかじめ分かっているものについては、当然ながら二重にならないように配慮しています。今回、都において相当数の施策が立ち上がっているということもありまして、最近ですと、例えば、2020年東京オリンピック・パラリンピック推進教育のための説明会、自殺予防のための研修あるいは説明会といったものが行われ、区の指導室を経由してというよりも、都教育委員会から学校へ直接下りてくるものがあります。中には、区の研修とダブルブッキングになってしまうものもあり、同じ校長がどちらの研修に行けばよいのかといった話にもなったりしています。そういった部分では、調整は難しいところではありますが、できる限り善処いたしたいと思っています。
- **雁部委員** 例えば、校長副校長共に不在だったときに、学校で事故が起きた場合、その現場は、全部主幹が責任を取るということになっているのですか。
- **指導室長** 私自身が校長だったときは、万が一そのような事故が起きた場合は、校長副校長のどちらかが、必ずすぐに戻るようにして、戻るまでの間は、電話で状況をやり取りするようにしていました。
- **教育長** 校長副校長二人とも抜けるということは、余程のことだと思いますが、例えば、その研修

を代わりに出席できる方がいるとか、後からでも済むといったような場合には、基本的にはどちらかが残ります。しかし、どうしても二人共に抜けなければならないといったようなときは、連絡体制をきちんとしておくといったことが必要になってきます。その辺りは、普通の学校であれば当たり前のことなので、各学校においてきちんとしているはずです。例えば、大会といった危険を伴うような行事があるような場合には、必ずどちらかは残ります。ですから、普段、何も行事予定等がないようなときに、二人共抜けてしまったといった場合には、事故のマニュアルがありますので、それを確認して対応するようにします。逆に、二人共に抜けてしまうようなことになったときには、遠方への出張は行かない、すぐに戻れる場所への出張のみにする、ということになると思います。ただ、雁部委員からのご指摘も踏まえて、再度、校長会においても検討していきたいと思います。

- **浅松委員** 校長も副校長も、例えば、区中研の役員であるといったような、都において色々な役職を持っている立場があったとしても、やはり、校長と副校長は日々の予定も含めて、二人共いなくなるような状況を作らないといった工夫は、普通はしていると思います。区の方では、きちんと公式な研修等については、あらかじめ的確な考えの中で、日程調整に努力をされていることなので、おそらく、日々のことはきちんと出来ていると思っています。
- **雁部委員** 時期的なものもあるとはいえ、やはり校長は学校のトップなので、本当はもっと子どもたちと向き合うことが一番大切なことだと思うのですが、あまりにも出張等が多すぎるように感じられます。その辺りはどうなのでしょう。
- **浅松委員** 私が、会長をやっていたときは、やはり学校を優先にすべきだと思っていたので、そのようなときには、逆に「来なくていい、学校優先にしてください。」と言っていましたし、そう言うべきだと思います。
- **教育長** それでも、万が一出張しなくてはならない、といった状況のときには、例えば、出発時間をぎりぎりまで待ってから行くといった調整をするなどして、最初からずっといないという状況には、普通はしていないはず。
- **坂根委員** 教育長の前では言いにくいことなのですが、東京都の研修等の中には、そのような場合には、必ず出席をしなければならないというのではなく、後から報告を受ければよいというものも十分あると思います。これは必ず出たほうがいいのか、そういった優先順位はあると思うので、その辺りの情報提供はいかがでしょうか。
- **指導室長** 都教育委員会では、必ず悉皆となってしまいます。やはり、きちんと聞かせたいという目的がありますし、また、都の場合は規模も大きいということもありますので、会場確保の問題もあります。そのようなことから、空いている時期や時間を考えると、区の日程を調整してからでは、会場を押さえられないといったこともできますので、急きょ、その日程で説明会を行わなければならないといったことがありますから、それぞれの立場における状況の兼ね合いの中で取り組まれているといったところです。もちろん、都が指定してきたところに、日程調整を交渉できる余地があるのであればいたしますが、それでも、何としてでもこの日程でお願いします、と言われれば、それに従うしかないということになってしまいます。
- **坂根委員** その調整は、指導室長がなさるのですか。
- **指導室長** 基本的には、担当の指導主事が行いますが、都から強く言われるようなときには、状況に応じて、私が相手の課長と直接やり取りをするということもあります。
- **教育長** 強く言われるというときは、大体、説明会が開催されるときです。もともと研修というのはあらかじめ冊子等で内容が分かっているものなのですが、緊急かつ重大な案件があったときには、

校長が呼ばれるということが多いです。区の中で行われている校長会においては、学校で何かあって、それでも校長副校長二人共に出られないときは、後から学校へ資料を渡して必要なことは口頭でも説明をするようにしており、両方を呼ぶということはしていません。呼びだすとしても、緊急な場合がほとんどですので、夕方や夜に呼びます。ただ、都の方がそういったところを同じように対応するのは難しいと思います。

- **阿部委員** 少なくとも子どもが学校にいる時間帯は、例えば大地震でもあったら大変なことなので、どなたか責任を取れる方が、必ずいることを優先にしてほしいです。それこそ会議はＩＴを使えばいいのではないのでしょうか。
- **坂根委員** そうですね、テレビ会議でもいいと思います。
- **教育長** 区の中だけではよいのですが、都は全体で約２０００の小中学校がありますので、会議という形をとるのは難しいと思いますが、都の方へ私の方からも申し入れをしておきます。
- **阿部委員** 私は、必要な説明は一方通行でもいいと思います。必ずしも全員が同時にその場所にいる必要はなく、伝わればよいと思います。
- **教育長** ただ単にペーパーを渡すだけですと、思いが伝わらないということもありますので、例えば、事故が起きた場合などは、必ず呼んで、口頭で具体的に説明をします。通知だけにしてしまうと、それっきりになってしまいます。この前もあったのですが、小さいことでも大きくなりそうな事故のときには、区の方では、早朝でも夜でも、校長を呼んで話をするといった対応をしています。このことについては、都の関係部署の方へも、私から話をしておきます。

その他

- **坂根委員** 最近、いくつかの学校公開へ行ったのですが、初任の先生方がとても頑張っていました。私から見ても、この先生は今回がきっと最初なのだろうと思ったのですが、校長先生や副校長先生へこのことを褒めましたところ、大変喜ばれました。実際にそういう先生方が頑張っているということで、教育委員会は今年度はとても良い方を採用されたということで、感謝しているといった声を方々で聞きましたので、ご報告いたします。
- **指導室長** ありがとうございます。
- **教育長** 以上で、教育委員会を閉会します。